

講演者紹介



藤井正明 (ふじいまさあき)

1959年生まれ。東北大学大学院中退。理学博士。国立分子科学研究所教授・分子制御レーザー開発研究センター長を経て、現在東京工業大学資源化学研究所教授。専門はレーザー分光とその応用。分子クラスターの構造と反応、レーザー分光に基づく超解像顕微鏡と高感度リアルタイムレーザー分析法を研究。2004年よりJST先端計測分析技術・機器開発プロジェクト「単一微粒子の履歴解析装置」リーダー、2007年から文部科学省特定領域研究「高次系分子科学」の領域代表。日本化学学会進歩賞。市村学術賞貢献賞、手島記念研究論文賞。

URL:<http://www.res.titech.ac.jp/~kiso/indexj.html>



神林龍 (かんばんやしりょう)

1972年生まれ。2000年東京大学大学院博士課程修了、博士（経済学）。東京都立大学経済学部助教授などを経て、現在、一橋大学経済研究所准教授。専門は、労働経済学。労働法の経済的影響に関する研究のほか、ハローワークの歴史や機能の評価、賃金格差の動向などの研究に従事。

URL :<http://www.ier.hit-u.ac.jp/Japanese/faculty/kambayashi.html>



永原陽子 (ながはらようこ)

1955年生まれ。東京大学大学院博士課程中退。文学修士。千葉大学助教授等を経て、現在、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授。専門は歴史学。ナミビア・南アフリカを中心とする南部アフリカ地域の歴史、帝国主義と植民地主義の歴史の研究に従事。現在の研究テーマは、南部アフリカの戦争と立つ植民地化の世界史的考察。

URL:http://www.tufs.ac.jp/research/people/nagahara_yoko.html

※ 当初予定しておりました大塚和夫先生は都合により永原陽子先生に変更となりました



稲澤譲治 (いなざわじょうじ)

1956年生まれ。京都府立医科大学医学部卒業。医学博士。東京大学助教授を経て、1998年より東京医科歯科大学難治疾患研究所教授。専門は遺伝医学、ゲノム医科学、分子細胞遺伝学。現在の研究テーマは癌と遺伝疾患の病態解明。日本血液学会奨励賞。2006年日本癌学会JCA- Mauverny Award。平成20年度文部科学大臣表彰科学技術賞（研究部門）。

URL:<http://www.tmd.ac.jp/mri/cgen/framepage.htm>

講演要旨

東京外国語大学・東京工業大学・一橋大学・東京医科歯科大学は、2001年3月に四大学連合憲章を結び、真に国際競争に耐えうる研究教育体制を確立すべく、たゆまぬ努力を続けてまいりました。その努力の一環として世界最先端の研究を強力に推進してきております。そして、この7年間に世界第1級の研究成果を数多く上げてまいりました。第3回目の今回も、学術研究の最前線をわかりやすく解説します。

「車の排ガスのその場高感度分析」 東京工業大学資源化学研究所教授・藤井正明

レーザー光を分子に照射すると分子は複数の光子を同時に吸収してイオン化する。この多光子イオン化には共鳴効果があり、種々の物質が混在した環境試料に対しても、レーザーの波長を注目する分子の色に一致させるだけで特定の分子種だけがイオン化して高感度で分析できる。つまり分離・抽出といった化学分析操作が一切不要で微量物質のリアルタイム分析が実現できる。講演では燃焼炉や自動車を中心とする燃焼ガス中の有害有機分子の高感度リアルタイム分析について述べる。

「労働市場の安全網（セイフティネット）」 一橋大学経済研究所准教授・神林 龍

人々の社会活動のなかで、労働生活は少なからずの比重を占めている。その一方で、労働生活は様々な危険と隣り合わせであることも事実である。仕事のためにケガをしたり病気に罹ってしまうこともあるだけでなく、仕事自体を失う危険も無視できない。私たちの社会は、こういった危険をあらかじめ回避するために様々な装置を考え出してきた。労災保険や失業保険といった制度は有名だが、それ以外にも職業訓練を通じて転職の可能性を高めたり、賃金水準を一定に維持したり、様々な政策技術が考案されてきた。その制度が、今岐路を迎えている。ここでは、そういった労働市場がもつ安全網について考えたい。

「『過去』をめぐる安全と安心—アジア・アフリカの歴史から」 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授・永原陽子

人間の「安全と安心」への関心は、通常は、現在と未来の暮らしがどうなるかということにかかわっているが、人が心の安らぎを得るとは、実は「過去」にもかかわっている。ここでは、植民地としての歴史の長かったアジアやとりわけアフリカにおい

て、人々がいかにして自らの「過去」を回復し、人間としての尊厳を取り戻そうとしているかを南アフリカの例を中心に紹介しながら、歴史学からの「安全・安心」へのアプローチについて考える。

※ 当初予定しておりました大塚和夫先生は都合により永原陽子先生に変更となりました

「ゲノムの変化から知るがんの個性と治療法」 東京医科歯科大学難治疾患研究所教授・稲澤譲治

がん細胞のゲノム異常は複雑で多彩である。このため同じ臓器のがんであっても浸潤や転移、治療抵抗などの性質に違いがある。がん細胞のゲノム異常を詳細に調べることはがんの個性を理解することであり、最適の治療法を選ぶうえでも重要な情報となる。